スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

三重県伊勢市

自 治 体 名 ： 三重県伊勢市
担 当 課 名 ： 伊勢市教育委員会事務局学校教育課
電 話 番 号 ： 0596-22-7881

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	208.37㎢
人口	117,920人 （令和7年5月）
公立中学校数	10校
公立中学校生徒数	2,926人
部活動数 （運動部活動のみ）	88部活
地域クラブ活動数	3クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

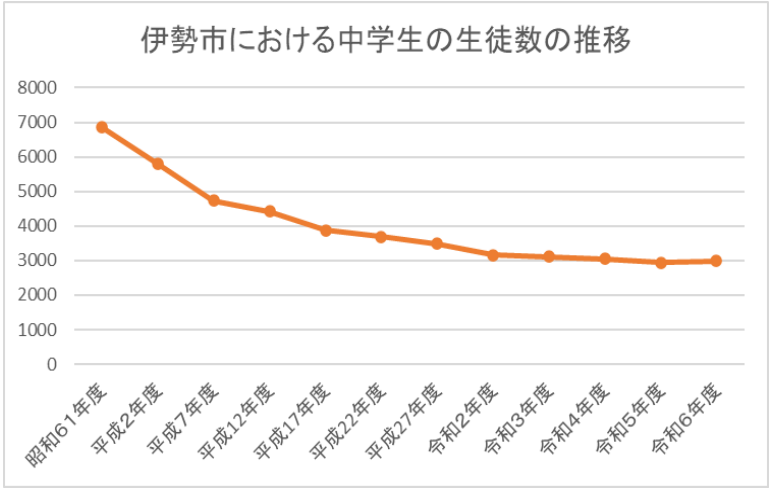
全国的な課題と同様、伊勢市においても少子化は進んでおり、生徒数は昭和61年の6,854人をピークとし、年々減少を続け、令和7年現在は2,926人と約57%減少し半数にも満たない状況となっている。

かつては多様な競技を選ぶことができたが、現在は、「入りたい部活動がない」「やむを得ず別の部活動に入っている」「どの部活動にも入っていない」といった生徒も少なくはない。

競技によっては、部員数の減少により廃部や活動の縮小、学校単位でチームが組めず、合同チームで大会に参加せざるを得ない部活動も増加している現状がある。

また、複数顧問の体制をとることが困難な学校や、実践経験のない競技の指導をせざるを得ないこともある。こうした状況から、今までの学校部活動の継続は難しく、改革の必要性が高まってきている。

子どもたちがスポーツ活動や文化芸術活動に楽しく取組める機会を確保することを大切に部活動の地域展開をすすめていく必要がある。



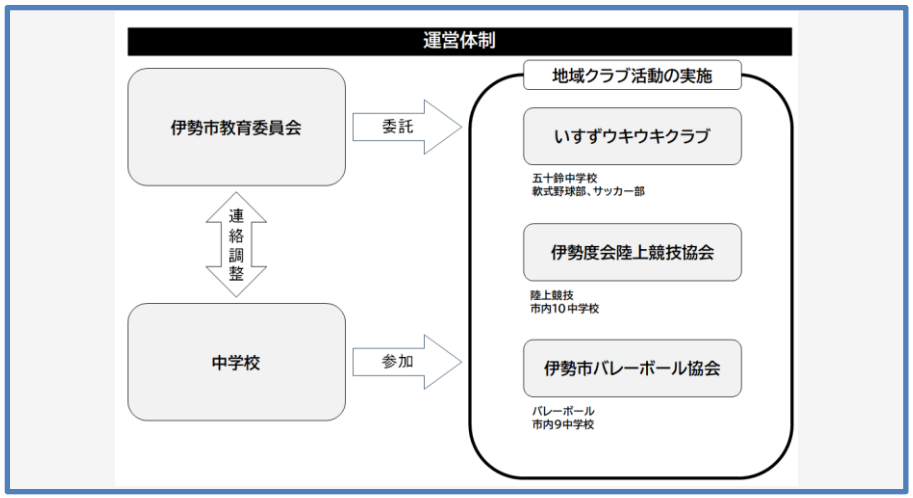
参考：
第3期伊勢市教育振興基本計画
伊勢市HP　伊勢市統計データベース

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会（学校教育課）

- 部活動あり方推進委員会（名称変更）の運営、学校部活動の現状把握、学校との連絡調整、学校施設の活用検討、児童生徒・保護者への広報、兼職兼業教員の勤務管理。

◉教育委員会（スポーツ課）

- 委託契約の締結、委託費の支払い等事業運営に関わる事務全般、事業実施に向けた指導助言、地域クラブの整備、スポーツ関係団体との連携・調整、コーディネーター。

◉情報戦略局文化政策課

- 部活動あり方推進委員会への参画、文化協会各団体との連携・調整。

年間の事業スケジュール

4	実施に向けての打合せ会議（中学校、総合型地域スポーツクラブ、教育委員会） 総合型地域スポーツクラブの活動開始　野球
5	総合型地域スポーツクラブの活動開始　サッカー 実施に向けての打合せ会議（各競技団体、教育委員会）
6	部活動あり方準備委員会にて活動報告・今後の確認 検討会①（方針・マニュアル）【学校教育課・スポーツ課】
7	第1回伊勢市スポーツ推進審議会にて説明 実証事業実施クラブ・団体への事前説明
8	検討会②（後期開始事業に向けて・次年度計画について）【学校教育課・スポーツ課】
9	生徒・保護者宛ての広報「イセノブカツ」発行
10	部活動あり方準備委員会にて活動報告・次年度計画について検討（アドバイザー招聘） 競技団体拠点型活動開始　バレーボール
11	競技団体拠点型活動開始　陸上競技 部活動あり方推進委員会（人材バンク、説明会等） ※あり方準備委員会から推進委員会へ名称変更
12	検討会③（進捗状況確認、中間とりまとめ）【学校教育課・スポーツ課】
1	部活動あり方推進委員会（今年度の成果と課題、次年度に向けて）
2	校長会にて説明（部活動地域展開の経過と今後について）【学校教育課・スポーツ課】
3	事業完了報告書・成果報告書等の作成 第2回伊勢市スポーツ推進審議会にて事業報告 教員向けオンデマンド研修（部活動地域展開の経過と今後について）

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		24クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		3クラブ（24部活動）
	B：部活動にはない種目など、新規の地域クラブ活動数		0クラブ
全体の指導者数	67人 大人保険人数総計	全体の運営スタッフ数	5人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日・休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
いすずウキウキクラブ	総合型スポーツクラブ	野球 サッカー	野球 サッカー 休日月1～2回	9:00～ 12:00 等	1～3年 約50人	野球 4月～2月 サッカー 5月～2月	12人	2人	本事業については不要	部活動
伊勢市バレーボール協会	競技団体	バレーボール	休日 月1～2回程度 （3会場）	9:00～ 12:00	中1、中2 約125人	10月～2月	35人	1人 （内、兼務0人）	本事業については不要	部活動
伊勢度会陸上競技協会	競技団体	陸上競技	休日 月1回程度	9:00～ 12:00 等	1～3年 約245人	11月～2月	25人	2人 （内、兼務0人）	本事業については不要	部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

●実績なし

2.実証内容と成果

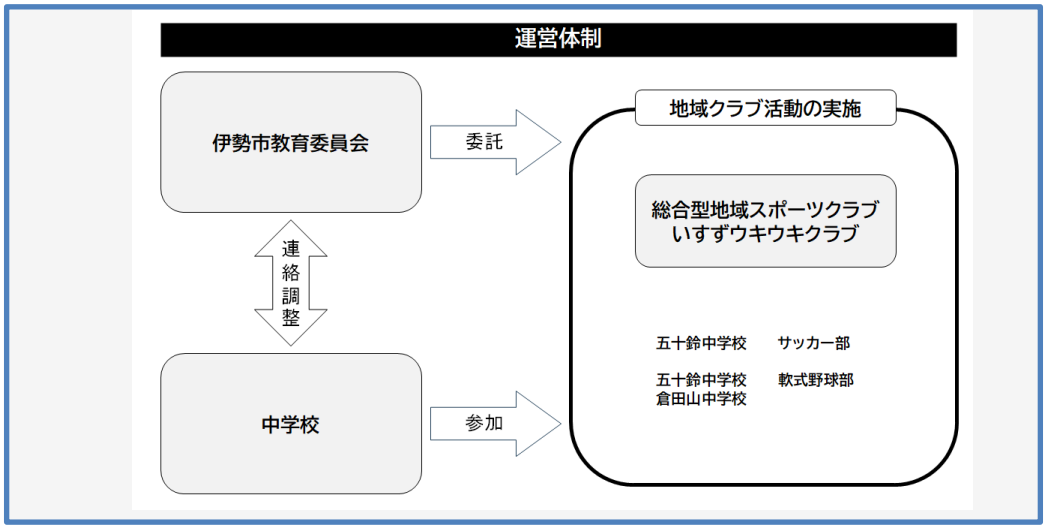
スポーツ庁

主な取組例

●いすずウキウキクラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	野球、サッカー
運営団体名	いすずウキウキクラブ
期間と日数	野球・サッカー：月2回程度
指導者の主な属性	いすずウキウキクラブ指導者 兼職兼業教員
活動場所	五十鈴中学校　運動場
主な移動手段	徒歩・自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	本事業については不要
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

- 事務局長

  役割：活動全体を統括する
- 指導者12名

  役割：生徒への指導を行う
- 事務員2名

  役割：事務作業を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

(1)教育委員会事務局学校教育課とスポーツ課が連携し、中学校体育連盟各競技専門部や総合型地域スポーツクラブ、各競技団体との面談等を通して実態や課題を把握し、連絡調整と指導助言を行う。
(2)各団体各種目にコーディネーターを配置し、円滑に学校や行政との連絡調整を行う。定期的に連絡をとり、活動状況の把握や運営上の課題等を抽出し、整理を行う。
(3)部活動あり方推進委員会（令和7年10月までは部活動あり方準備委員会）において、これまでの取組を振り返り、方針や今後の運営体制を検討・策定する。

取組の成果

(1)事業実施前に、実施主体と担当者が面談をし、実施方法や安全管理について細かな打合せを行い、必要に応じて資料提供を行い、危機対応マニュアルを作成する等、安心して取組める体制を整えることができた。
(2)競技団体では、複数校にわたる生徒や複数会場を運営するため、コーディネーターを設置して円滑な実施ができた。特に兼職兼業教員がコーディネーターを務めた団体は、学校との調整がスムーズであった。
(3)令和8年度以後の見通しをたて、委員会にて意見をいただくことができた。実施に向けて今後必要になってくる人材や予算の確保について検討できた。

今後の取組における課題

(1)地域クラブを運営する団体が増加するにつれて、連絡調整が必要な団体が増大するため、市として運営体制の強化が必要となる。また校長会との継続的な連携が必要不可欠であり、連絡調整を行う必要がある。
(2)団体によって組織力が異なるため、必要に応じた支援・助言が必要となる。各団体のコーディネーターや事務局と市担当者の役割を区別し、業務分担を明確にした上で連携をとることで、効率的に取組める。
(3)実証事業において見えてきた課題を的確に把握し、次年度以降の取組につなげていく必要がある。実証事業を通して、常に取組について改善しながら、市全域の地域展開を図っていく。

課題への対応方針

(1)市としては、より事業の拡大が見込まれる令和9年度以降の人員配置増加を含む、運営体制強化に向けた予算確保を行う。あわせて校長会に担当者が説明に出向く等、周知・広報活動に力を入れ、理解・周知を図る。
(2)新規実施団体へは、丁寧な説明を行うとともに、今年度実施した団体を参考にし、スムーズな運営が行えるようアドバイスをする。事務局と市担当者の連携が重要である。
(3)部活動あり方推進委員会を継続的に開催し、大学教授や文化協会担当者も含め、多角的に意見をいただき、改善しながら事業を進める。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

- 競技団体においては、人員配置・実施計画を担うコーディネーターを設置した。市内全域より生徒が参加するため、バレーボール競技、陸上競技ともに、学校や種目ごとに生徒や指導者の振り分けを行い、練習拠点における練習内容を中心となって計画した。
- 教育委員会と学校や関係団体との情報共有・連絡調整等に向けたコーディネーターは市としては設置していない。同様の役割は伊勢市教育委員会事務局スポーツ課担当者が担って実施した。今後は地域クラブを運営する団体が増えることを想定し、各競技毎に教育委員会との連携を目的としたコーディネーターを配置できるとよりスムーズである。

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

- 伊勢市バレーボール協会では、協会が主催となり、指導者に向けた指導者講習会（AED講習・コンプライアンス研修）を開催し、指導事故の未然防止に努めた。事業の参加者には、健康に関する特記事項を事前に報告するように連絡をし、指導の際に配慮できるようにした。
- 市担当者が、適切な会計処理ができているか、各団体の会計担当者と連携をし、検査を行った。団体も公正かつ適切な会計処理の実行に向けて、税務署と相談をしながら実施ができた。

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

- 地域クラブ活動の事務局との連絡・調整を事業実施前、実施中と継続的に行った。
- 地域クラブ活動日の中止連絡をHP上で行い、事務局側の連絡業務の効率化を行った。
- アンケートについてはロゴフォームを活用し、集約業務を効率化した。
- 生徒への募集案内や参加集約等については、行政より校長会を通じて部活動顧問と連携をとり、取りまとめを依頼した。

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

- 事業実施前には、団体と指導者、学校長が集まり打合せをし、事故発生時の対応方法について共通認識を持つ機会を設けた。
- 救急体制フローチャートを作成し、全団体と共有した。救急車を呼んだ際には、団体から学校長へ連絡をいれることなどを確認。
- 教育委員会が、全団体共通の「事故報告書」を作成し、事故発生時の報告についてマニュアル化した。
- 特定の病院と、総合病院初診に関する保険外併用療養費の免除について承諾をいただいた。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- 指導者確保のため、総合型地域スポーツクラブ、競技団体等との相談や連携を進める。
- 指導者発掘のため、市独自の【部活動地域展開指導者・サポーターバンク】（以下人材バンク）の設立に向けて制度を整える。

今後の取組における課題

- 市として指導者の確保にあたっては、募集方法や周知の仕方が確立されておらず、困難であった。団体によっては人材が不足しているため、人材発掘の必要性を感じている。また指導者への研修制度などを整えていく必要がある。
- 人材バンク設立に向けて、要項の作成等を進めたが、継続的に活用していくには、周知など広報の仕方を考えていく必要がある。いつ、どこで、だれを対象とするのか、人材バンクを作成するだけでは活用しきれない可能性がある。
- 競技によっては指導者不足が顕著な団体もあり、部活動の地域展開を担うことができない可能性も考えられるため、団体強化も必要である。

取組の成果

- 各団体が指導者確保に努め、充分な指導者を確保し、活動を行うことができた。どの取組も複数体制で指導を行うことができ、充実した指導体制となった。生徒からも指導者に対して満足する声が聞かれた。
- 人材バンクの制度設計が整い、次年度の運用に向けて準備ができた。

課題への対応方針

- 指導者へのアンケートからは、次年度も継続的に指導者として携わる意志が多く見られた。不安もあった中、中学生への指導を実際に体験することで不安が払しょくされ、前向きになっていただいたようである。指導者の活動事例を紹介する等、指導者としての活動がイメージしやすい資料などを作成し、人材を発掘していきたい。
- 人材バンクを立ち上げ、指導者やサポーターについて広報誌等を活用して周知し、人材を発掘する。
- 部活動指導員と同様に、必須研修制度を設け、指導者の質の確保や指導者が安心して指導ができる環境整備に努める。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

- 各団体で、過去に団体の活動に携わってきている人材に向けて案内を送付する等して、指導者の確保に努めた。
- 団体が独自にAED講習、コンプライアンス研修等を行い、生徒だけでなく指導者も安心して指導に取組めるようにした。
- 市として人材バンクの整備をし、令和8年度から運用できる準備を整えた。
- 伊勢市スポーツ協会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブに、市の取組を紹介し、指導者発掘に対して協力を依頼した。

団体が実施した指導者研修の内容

研修名	危機管理研修会 指導者講習会
講師	伊勢市バレーボール協会会長・理事長
研修内容	コンプライアンス研修 • 育成年代における高圧的な指導の不要性について • 体罰防止にむけた取組 • ハラスメント根絶に向けて • 参考指導事例集 • 危機管理について • AED体験

指導者研修参考資料

※「ペップトーク」＝選手を励ましたり、鼓舞したり、集中力を高めたりするために使われるポジティブな言葉がけ。
・怒るのではなくアドバイスする。
・ネガティブな言葉（萎縮、マイナスイメージ）をポジティブな言い回し（のびのび、プラスイメージ）に変換する。
※ポジティブな行動
・良いプレーにハイタッチ。ベンチで飛び上がって喜ぶ。勇気づける動作
（対戦相手を見下すような言動はダメですよ）
・練習はじめからテンション上げよう！（コーチが暗い雰囲気はNG）
・練習終わりには次回にやる気を出させる声掛け。目標設定。
※アイスブレイク
※心理的安全性＝のびのびとプレーできる環境を作る
※アンガーマネジメント＝怒りの感情を上手にコントロールする心理トレーニング。
・腹が立ったらすぐに怒らず１０数える。「怒る」と「叱る」は違う。
「何でこんなことができないんだ！」
⇒できない理由はなにか。
自分の教え方が悪い。説明する言葉が不足していなかったか。
そのプレー以前の選手の基礎体力や基礎能力を把握していないのでは。
選手が疲れていたり、集中力を欠いていたりする状況ではないか。
選手個人ではなく、他の選手との人間関係、場合によっては保護者や周りの環境に原因があるかも。
※スポーツマンとは＝仲間を大切にし、他人から信頼される格好良い人。
・他者にリスペクトを持てる人。イライラしたり悪口を言ったりしない。
・マナーを守れる、人間的に成熟している人。
※「厳しさ」＝指導者に言われて身体的、精神的に追い込む練習？＝苦しい。
自ら目標を高く設定し、そこに向かって突き進む。＝自らに厳しい。ストイック。
今のレベルよりハードルが高いところにトライする。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 総合型地域スポーツクラブ、競技団体が実施主体となり、社会体育施設や学校施設等を活用して、中学校の生徒が活動に参加できる体制を構築する。
- 令和7年度は、サッカー、軟式野球、バレーボールにて実施/検証を行う。
- 検証を通じて得られた成果と課題を令和8年度以降の取組に反映する。

今後の取組における課題

- 兼職兼業教員が参加していない団体の会場確保について、学校との連絡や調整回数が増え、学校部活動顧問や各団体の負担感が増大となる。
- 指導者数が少ない団体に対して、人材確保の方法をともに考えながら、受皿体制の強化を図る必要がある。
- 指導者の確保だけでなく、報酬支払業務など事務量も増加するため、事務担当者の増員や作業のフォーマット化を図る必要がある。
- 部活動地域展開の事業を実施する団体が増えるにつれて、統一した基準を明確にする必要があるため、市としてのガイドラインを作成する必要がある。

取組の成果

- 総合型地域スポーツクラブと連携している中学校の生徒アンケートからは、課題は特になく、「色々な人に指導してもらえて良かった。」という声が多かった。
- 学校施設の調整は兼職兼業教員が行ったため、スムーズにできた。兼職兼業教員が関わっていない団体では、学校との連携について課題が多かった。社会体育施設を利用する場合は、費用負担や定期的な使用が難しいため、会場確保の難しさを感じた。
- 各団体とこまめに連絡を取り、課題が発生したときには協力しながら迅速に取組むことができた。また、令和8年度に向けて、随時必要な資料を作成しながら進めることができた。

課題への対応方針

- 学校施設の会場管理について、各中学校ごとの状況を把握し、調整を行うコーディネート方法を確立していく。部活動と地域クラブが混在する期間は、特に学校との協力体制を構築する必要がある。教育委員会がパイプ役として、その業務を担っていく。
- 人材バンクの運用を始め、指導者や活動を支えるサポーターの確保を行い、部活動の地域展開を担う団体へ紹介できる体制を整える。サポーターには、活動を見守る人や事務員も含めて募集をかけることで、直接的な指導者以外の人材も発掘していく。
- 市のガイドラインを作成し、各団体が活動する基準を明確にし、取組やすい環境整備に努める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実

取組事項

- 令和6年度に引き続き、大学と連携し、中学生生徒を対象とした合同体験教室を行う。令和６年度は陸上競技の１種目を実施したが、令和７年度は、陸上競技に、駅伝競走と軟式野球を追加し、合計３種目を実施した。
- 実証事業に参加した団体や生徒等を対象にアンケート調査を行い、そのニーズ等を把握し、今後の活動につなげる。
- いすずウキウキクラブ（総合型地域スポーツクラブ）のサッカー競技では、小学生と合同練習会を定期的に行い、世代間交流を積極的に行った。

今後の取組における課題

- 大学と連携をして行っている事業では、大学としての安全管理基準等、運営面での課題もあり、今後の体験教室のあり方について大学と再検討が必要となっている。
- アンケート結果からは、現在部活動と並行実施のため問題が見られにくかった。しかし、部活動が完全移行されるとなるとアンケート結果が大きく変わることが想定される。
- 世代間交流自体は、指導者にとっても児童生徒にとっても有用であるが、頻度や時期については課題が残った。限られた回数で実施した事業としては、回数が多く感じられた。

取組の成果

- 大学の陸上競技部、駅伝競走部、硬式野球部（指導は軟式野球）と連携をし、体験教室を実施できた。学校を通じて案内を配布し、参加募集を行い、34名が参加した。
- 参加者からは、普段利用できない施設を利用することの楽しさや、現役で取組んでいる学生から指導をしてもらえるという喜びの声があった。
- 生徒へのアンケート結果を生かして、実証事業の持ち方、頻度、指導方針等、改めて各団体と相談することができた。
- 小学生が中学生の活動に参加する形で世代間交流が行われていたが、中学校に入学後も、同じチームで活動を続けていきたいという声が聞かれた。

課題への対応方針

- 合同体験教室に携わってきた大学生が、今後地域展開の指導者として関わることができるよう、大学と連携を図る。
- 現在学校部活動と並行して行っている地域クラブ活動を、令和8年度では地域クラブとしての活動回数の増加を図りながら、週末部活動の完全地域移行化に近づけていく。その中で、随時アンケート調査等を通して生徒や保護者、指導者のニーズを確実に把握しながら改善していく。
- 令和８年度は地域クラブがチームとして大会にも出場していく予定である。年間を通じたスケジュールを、より計画的に立てていく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実

合同体験教室活動写真









2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

実証事業を通じて、部活動の地域展開は生徒にとって、専門性の高い指導や他校との交流、顧問以外の指導者による指導体験、複数体制による活動日の補償等、新たな価値を提供するものであることが確認された。生徒の「楽しそうに活動する姿」は、本事業がスポーツ・文化活動の持続可能性を確保する上で有効な手段であることを示している。
本年度、市として初めて部活動の地域展開実証事業に取組んだ。事業を通して見えてくる課題を的確に把握し、次年度以降の取組につなげていくことを目標とした。その中で、各団体と連携をこまめに取り、すぐに対応できるもの、次年度に向けて改善すべきこと等を確認しあい、課題に対応することができた。また、当初予定をしていなかったが、市独自に人材バンク制度の設立準備を整える等、次年度に向けて具体性をもって進めることができた。しかし、学校との連携においては課題が山積している。中でも施設開放・施設利用予約に関しては、教員に頼る部分が大きく、兼職兼業教員が関わっていない団体においては難航している。また、児童・生徒・保護者だけでなく、学校を含む地域全体に、部活動の地域展開について周知する必要があると考える。今後は広報活動にも力をいれていきたい。

●成果の評価

【関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備】については、連絡を定期的に取り、常に状況把握をし、次年度へとつなげることができた。しかし、どの団体も部活動地域展開に携わり始めたばかりのため、団体ごとに課題が千差万別であり、都度対応が必要である。また学校との連絡調整には課題が残った。
【指導者の質の保障・量の確保】については、委託先の団体が丁寧に取組、充実した体制で実施していただいた。また、人材バンク制度の設立準備を進めることができた。今後は部活動地域展開の受け皿となる団体によっては、指導者の数が不足することも考えられる。指導者発掘に力をいれていくと同時に、質を保障するための制度を整えていきたい。
【関係団体・分野との連携強化】【内容の充実】については、予定通りに実施することができた。アンケートを通して、結果の共有をしながら、さらなる連携を図っていく。

●今後に向けて

- 持続可能な指導体制や運営体制の確保、事務負担の軽減
  生徒が活発に活動しているとの好意的な意見がある一方、継続的な指導者確保に難航しており、スタッフも含めてバックアップ体制の構築が必要である。特に活動初期段階においては、事務作業も膨大となり、事務局の強化が必要である。市のガイドラインやマニュアルの作成等を通して、作業の簡易化、効率化を図る。
- 指導者の質の保障・量の確保
  指導者への面談、研修制度、地域クラブ活動の視察等、質の保障に向けて制度を整えたい。生徒や保護者だけでなく、指導者にとっても安心して指導ができる環境づくりをしていく。

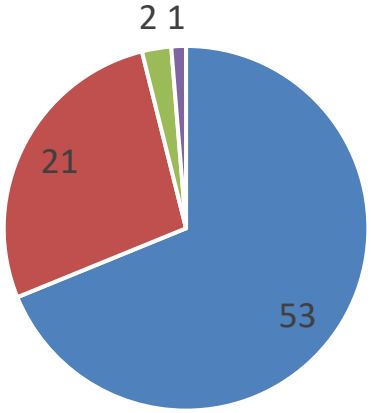
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果（参加生徒）※有効回答76

Q1.参加した地域クラブ活動に満足していますか？



- 満足している：53人
- どちらかというと満足している：21人
- どちらかというと満足していない：2人
- 満足していない：1人

Q2.その理由を回答して下さい。

満足理由（複数回答）	件
参加していて楽しい・充実していると感じる	59
専門的な指導を受け、技能の上達を感じることができる	46
自分の学校の先生以外の人に指導をしてもらえる	44
技術以外（礼儀作法等）を指導してくれる	26
他校の生徒と交流ができる	49
特に理由はない	2
指導者がたくさんいるのでそれぞれの意見が聞けて勉強になる	1
不満足理由	
参加していて楽しくない・充実していないと感じる	1
専門的な指導を受けられず、技能の上達を感じることができない	1
自分の学校の先生以外の指導となるため	1

Q3.今年度参加して良かった点・悪かった点を回答してください。

今年度地域クラブ活動に参加して、良かった点	件
他校・地域の人と交流できた	13
技術が上達した・うまくなった	12
地域の指導者・大人が丁寧に教えてくれた	6
新しい気づき・改善点が見つかった	4
練習が楽しい・充実している	5
練習環境が良い（芝・負荷・基礎練習など）	6
人数が増えて良かった	2
サッカー・バレーなどの活動が楽しかった	3
自分に足りないことが確認できた	1
指導者が増えて良かった	1
今年度地域クラブ活動に参加して悪かった点	
指導者内容が自分にあっていない	2
他校や地域の人と交流しなければならない	1

●参加者の声

参加者①
地域の方が丁寧に教えてくれて、安心して活動に取組むことができました。

参加者②
他校の生徒と交流できたこともとても良い経験になりました。今後もこのようなれば参加したいです。

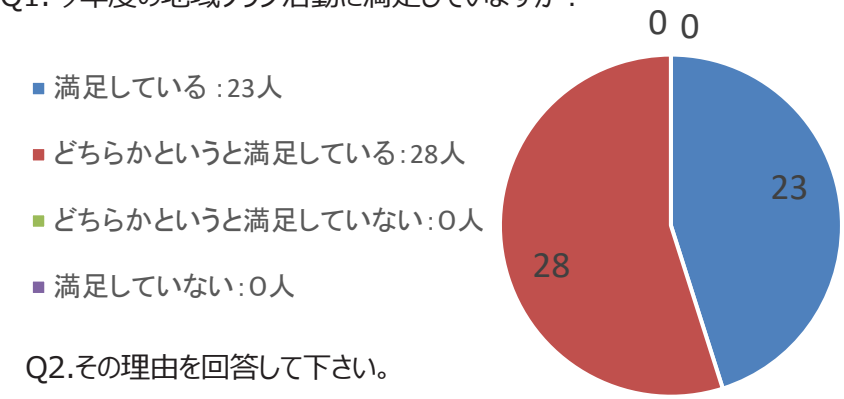
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果（保護者）※有効回答51

Q1.今年度の地域クラブ活動に満足していますか？



Q2.その理由を回答して下さい。

理由（複数回答可）	件
子どもが楽しい・充実していると感じる	30
学校の部活動と変わらず活動できている	23
自分の学校の先生以外の人に指導してもらえる	19
専門的な指導を受け、技能の上達を感じる	17
学校の部活動よりもよい活動ができている	6
技術以外（礼儀作法など）を指導してくれる	6
部員数が確保できる可能性がある	1
他校に友達ができた	1
長距離で競い合うことで意識が高まる	1
バレーが好きで活動が増えて嬉しい	1
大人の目が多く、いじめがなく楽しめる	1
学校部活への不満	1
特になし	5

●関係者の声

保護者①

学校以外の大人や他校の生徒と関わる貴重な機会となり、子どもにとって良い経験になったと感じています。今後も安全面に考慮しながら継続していただけるとありがたいです。

保護者②

他校の生徒が参加できて非常にありがたく感じています。友人、先輩関係も広がりました。また多人数で活動する中で、レギュラーをとりたい！と思う気持ちが育まれ、本人のやる気につながっていると思います。

保護者③

分かりやすく指導してもらえるとわかり、行かせてよかったと思っています。中学校での部活が楽しくて仕方ない、というよい経験であるように地域クラブ活動を続けてください。必要に応じて各所の管理者のチェックを入れてもらえるとより安心できます。

保護者④

送迎は親の負担になります。

全体の傾向まとめ（保護者）

- **感謝の声が多い（地域の協力・指導者への感謝）**
- **交流の価値（他校生・地域の大人との関わり）が高く評価**
- **指導者の質、人数の充実を求める声が複数**
- **土日の負担、送迎負担など家庭側の負担も課題**
- **学校施設での放課後活動継続を望む声も重要**

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果（指導者）※有効回答40

Q1.指導者として参加してよかった点(件)

指導を通じてやりがいを感じられた	18
参加者の技術的成長が見られた	15
他の指導者から学ぶ機会を得られた	20
参加者の人間的成長が見られた	13
報酬を受け取ることができた	13
自分自身の指導力が向上したと感じた	8
最近の子供達の考え方を学べた	1
指導者が多く、自分が参加できなくても生徒の活動を実施できたこと	1
回数が少なすぎて成果を判断しようがない	1

Q2.指導を通じて感じた課題点（件）

生徒とのコミュニケーション	21
指導者不足	18
学校（顧問など）との連携・コミュニケーション	16
施設・整備	12
事故発生時の対応や責任の所在	9
保護者対応	7
生徒同士のトラブル	4
制度（あるべき姿）と現実（実情）をどう埋めていくのか	1
地域移行への見通し	1
会計や旅費などの事務作業が煩雑	1
伊勢市（教育委員会）による推進不足（予算含む）	1
子ども達のレベル差への対応	1

●関係者の声

指導者①

人数的に、1中学校を指導するより大人数になる。意識レベルにも差があるので、意識や技術などに応じて分けることや、当面は中学の指導者や保護者の理解や連携が、必要と考える。また、指導者の確保という点からも運営費(謝礼など)などの資金面を充実させていくことが大事だと思う。

指導者②

持続可能な方法を模索している最中ではあると思うが、よりスピード感をもって進めていくことが必要であると感じる。また、長期的に指導していただける若い指導者が必須。

指導者③

生徒とのコミュニケーションの取り方が難しい。

指導者④

全体的な流れを考えた時、誰かがやらなければならないということと、地域の中学生のレベルアップ(教育的にも、技術的にも)に少しでも貢献できればと思っている。

全体の傾向まとめ（指導者）

- **兼職兼業（特に平日活動）の扱いが課題。**
- **指導者不足・練習量不足・競技レベル差など、現場の運営課題が深刻。**
- **中学校との連携不足が競技力向上や情報共有の妨げになっている。**
- **子どもの競技環境（練習機会・試合機会・見学機会）を増やしたいという強い要望。**
- **地域展開のロードマップが不明確で、現場が手探り状態。教育委員会がより主体的にすすめるべきとの意見あり。**

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

参考資料



【いすずウキウキクラブ　野球】



【いすずウキウキクラブ　サッカー】



【伊勢市バレーボール協会　拠点型】



【伊勢度会陸上競技協会　拠点型】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
準備委員会設置 検討開始	学校・関係団体との調整	実証事業実施団体の選定	実証事業開始

令和4年度

● 経過
- 部活動あり方準備委員会を設置し、地域移行に向けた検討を開始（10回会議開催）部活動地域移行についてアンケート実施（公立教職員対象）

● 実施内容
- 部活動地域移行に向けた「伊勢市の方向性」の検討・整理

令和5年度

● 経過
- 部活動あり方準備委員会を開催し、地域移行に向けた検討を行うとともに必要に応じてアドバイザーを招聘
- 令和6年度実施予定の大学と連携（合同体験教室）の調整を行う

● 実施内容
- 実証事業の内容について検討と関連団体等の調整

令和6年度

● 経過
- 総合型地域スポーツクラブへの聞き取り、受入れの調査
- 各中学校長へ地域移行の方向性と実施についての説明
- 「部活動地域スタートアップ事業（県）」を受託『合同体験教室（陸上競技）』を実施

● 実施内容
- 実証事業の具体的内容の決定と関係団体との調整

令和7年度

● 経過
- 実証事業開始（3団体）
- 中体連専門部、各競技団体等に聞き取り実施
- 地域展開について保護者宛て「イセノブカツ」発行

● 実施内容
- 実証事業の開始次年度以降の取組団体拡大に向けて検討

※部活動のあり方推進委員会構成委員

学校教育課、スポーツ課 中体連会長・理事長	学校教育課、スポーツ課、文化政策課、 中体連会長・理事長、文化芸術活動担当校長

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

